



夏山シーズン到来

船形山や栗駒山など管内の山々は山開きも終えて、本格的な夏山シーズンを迎えています。

これから多くの登山客が山に入りますので、パトロール員の皆様も入山者に対して安全に十分留意されるよう、一言声かけをお願いいたします。

←大和町升沢 割山大滝

パトロール員の認証式 おこなわれる

ボランティアによる森林パトロール員の認証式および研修会が、4月12日宮城北部森林管理署において行われました。

当日は29名の方が出席(欠席4名)され、認定書が各自に交付されました。

その後、研修会に移り、日頃の疑問点を含め、活発な意見交換が行われました。

皆様にはこれから2年間、よろしくお願いいたします。



国有林アラカルト

管内概要

宮城北部森林管理署の管轄国有林面積は 70,464 ha あります。

管轄のうち保安林面積は 64,344 ha あり 91% が保安林です。

保安林の 95% が水源涵養保安林です。

自然公園面積は 44,054 ha で、内訳は国定公園が 26,829 ha、県立自然公園が 17,225 ha で、管内国有林の 62% を占めています。

主なものとして栗駒国定公園、南三陸・金華山国定公園、県立自然公園船形連峰、気仙沼県立自然公園などがあります。

ブナ林などの天然林が 40,194 ha、スギ林などの人工林が 25,417 ha、道路や沼、岩石地などその他が 4,803 ha あります。

連絡先：大崎市古川東町5-32 宮城北部森林管理署 担当：森林技術指導官 工藤
Tel 050-3160-5930 Fax 0229-23-8624
eメール nobuhiko_kudou@rinya.maff.go.jp

ウエツキブナハムシによる被害



ウエツキブナハムシ被害 鬼首禿岳 2012.9.10写



ウエツキブナハムシに食害されたブナの葉 2012.9.10写



ウエツキブナハムシ幼虫 2012.9.12写



ウエツキブナハムシ成虫 2013.6.23写

最近、ブナの葉が夏に枯れる現象が広がっています。これはウエツキブナハムシにより食害を受けるためです。ウエツキブナハムシの食害は、2007年頃から山形県月山で被害の報告がされるようになり、次第に拡大しています。宮城県では山形県、秋田県から被害が広がって、2011年に禿岳、国道108号線沿いの大崎市鳴子温泉鬼首地区に発生しました。その後、鳴子温泉の花淵山や栗駒山周辺に被害が大きく拡大しています。

この虫は、大きさが6～8mm程の甲虫で、幼虫も同じ大きさです。成虫は7月頃土中から羽化してブナに飛来し、葉の表面をなめるようにして食べます。成虫は葉の裏面に産卵し、ふ化した幼虫も同じようにブナの葉を食べます。脱皮を繰り返した幼虫は、9月頃に幹を伝って地中に潜り越冬して、春に蛹化して7月頃羽化をする生態です。

食害を受けたブナは、8月頃から変色し、9月には紅葉したように赤く見え、落葉してしまいます。この被害でブナが枯れることはないようですが、かなりのダメージを受けると考えられます。



ウエツキブナハムシの卵の抜け殻



ブナの葉食害の様子2013.9.2写